

平成30年4月
京都市立向島二の丸小学校

平成30年度 向島二の丸小学校教育構想

平成31年度開校予定 向島秀蓮小中学校の教育方針

変える・変わる・そして輝く 小中一貫教育
～学校・家庭・地域がつながり、人が育つ～

教育理念

人間性を磨き、人間力を高める

校訓

自立・清心・貢献

学校教育目標

一人ひとりの人間性を磨き 未来を拓く力の育成
～果敢に挑戦！知らない自分に会いに行け！～

目指す子ども像

ひたむきに学び続ける姿 たくましく誠実な姿 豊かに生き合う姿

1 教育理念

平成31年4月に向島中学校区に施設一体型の小中一貫教育校「向島秀蓮小中学校」が創設される。

それに伴い、平成29年に二の丸北小学校と向島二の丸小学校が一次統合され、二の丸北小学校の跡地に新校舎が建設されている。

二の丸北小学校では少人数の利点を活かしながら、地域と一体となり、子どもたち一人ひとりの個性と学力の伸長を図る教育活動を展開してきた。

また、向島二の丸小学校では、様々な課題を抱える児童一人ひとりを徹底的に大切にし、個々の課題解決と確かな将来展望を拓くための教育活動を学校組織を挙げて実践してきた。

一次統合校である本校では、二の丸北小学校が培ってきた地域ぐるみの教育活動と向島二の丸小学校が育んできた組織力を融合・発展させ、子どもたち一人ひとりの豊かな未来を拓く教育活動を展開するとともに、小中一貫教育校開校に向けた取組を推進する。

- 統合により広がった地域や人間関係を最大限に活用した、協働的教育活動の展開
- 両校の伝統と良さを融合しながら、主体的・自律的に学ぶ力を育む教育の創造
- 小中一貫教育校創設を視野に入れた先進的な教育の構築
- 中学校ブロックでの学校間連携、地域間連携の推進

2 教育方針

・知力 　・気力 　・体力

日々の学習で培った「確かな学力」と様々な体験活動を通してはぐくんだ「豊かな心」、健康的課題解決力の醸成による「健やかな体」を基盤として、自らの生き方を考え、実践し行動化できる児童の育成を目指し、未来を切り拓く「生きる力」としての学力の向上につながる教育活動を展開する。

- 子どもたちの将来展望を拓く 「確かな学力」
 - 自己肯定感と自己有用感を育む 「豊かな心」
 - 学習の支えを確かにすること 「健やかな体」
- バランスのとれた児童の育成を目指す。

3 学校教育目標

知力（学び合い）・気力（認め合い）・体力（高め合い）

仲間と共に

生き生きと学び合い、互いの良さを認め合い、力を合わせ高め合う

児童の育成

（1）目指す子ども像

- ・目的を持って自ら学び続ける子・・・・・・・・・・・・ 知力
- ・自分の可能性を信じ、果敢に挑戦する子・・・・・・・・ 気力
- ・心身ともに健康な生活を意識し、進んで実践する子・・・体力
- ・切磋琢磨し共に高め合う子ども・・・・・・・・・・・・ 協力
- ・地域を大切にする子ども・・・・・・・・・・・・ 貢献

（2）目指す教師像

子どもたちの豊かな未来に向け、学校教育目標及び目指す子ども像の実現を目指し、志を持って共通理解と共通実践のできる教職員集団

- ・社会人としての自覚ある言動と子どものモデルとなる姿
- ・志を持って、子ども、保護者、地域からの信頼に応えるよう実践する姿
- ・常に自己研鑽に励み、全ての子が学ぶ喜びを感じられる授業づくりを目指す姿

4 教育の視点

キャリア教育（生き方探究教育）

将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力の基礎を育む「キャリア教育」の視点を持って日々の教育活動を展開する。

◎人と共に社会を生きる力

コミュニケーション力（よりよい人間関係と社会性）

◎自分を知り、律する力

規範意識（自己判断・自己決定し主体的に行動する）

◎課題を見つけ解決する力

課題解決力（見通しを持ち、より良く課題を解決する）

◎夢や希望を作り上げる力

将来展望（働くことの意義を理解し、責任を持って取り組む）

◎向島中学校「生徒十訓」との関連を強化した具体的行動目標の設定

向島中学校 生徒十訓	
規則は人をとがめ	一、笑顔ですすんであいさつをします。
規律は人を和ませる	一、身だしなみを整えます。
く	一、時間を持ります。
く	一、授業を大切にします。
く	一、人の話をしっかりと聞きます。
く	一、言葉づかいに気をつけます。
く	一、集団行動を大切にします。
く	一、仲間を大切にします。
く	一、一生懸命掃除をします。
く	一、3い追放を徹底します。

小中一貫教育「向島秀蓮小中学校」開校を見据えた取組の推進

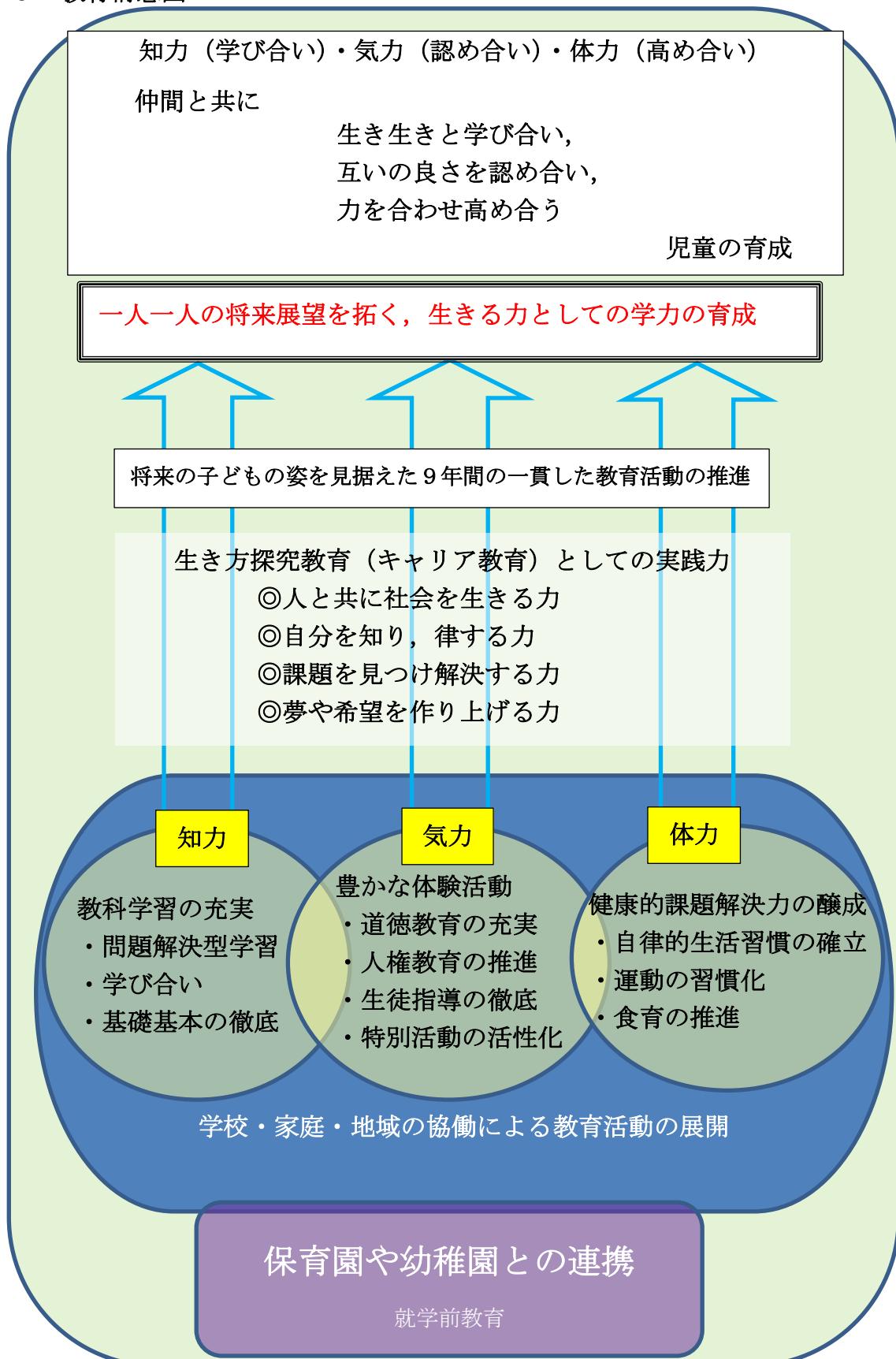
～いまいる子どもたちの成長につながる取組として～

◎4・3・2制を意識した学年体制の在り方

◎クリティカルシンキングを核にした校内研究の推進

◎小中教職員の協働体制の構築

5 教育構想図



6 教育の重点

(1) **知力 確かな学力**

～一人ひとりの進路展望を拓く「確かな学力」の育成～

- ・自ら学ぶ力を育む、主体的・能動的な学習活動の展開
- ・言語活動の充実による 思考力・判断力・表現力の育成
- ・多様な学習形態による個に応じた指導の充実
- ・基礎的、基本的事項の定着を目指す、モジュールタイムの設定
- ・低学年からの英語活動の実施
　グローバル社会を生きるコミュニケーション能力の基礎の育成
　小中9年間の一貫したカリキュラムの作成と実施
- ・I C T 機器の効果的な活用を通して、主体的な学習態度、学習法の習得
　各教科でのタブレット P C の活用
- ・家庭学習と授業の有機的な関連を図る取組の構築

(2) **気力 豊かな心**

～豊かな体験活動を通した自己肯定感、自己有用感の育成～

- ・人権尊重を基盤とした豊かな人間関係の構築
- ・縦割り活動やピアサポート活動など多様で豊かな特別活動の実施
- ・部活動などの多様な体験活動の提供
- ・広がった地域の人材を活用した豊かなふれあいのある事業の実施

(3) **体力 健やかな体**

～基本的生活習慣の確立と自らの健康や安全を守る態度の育成～

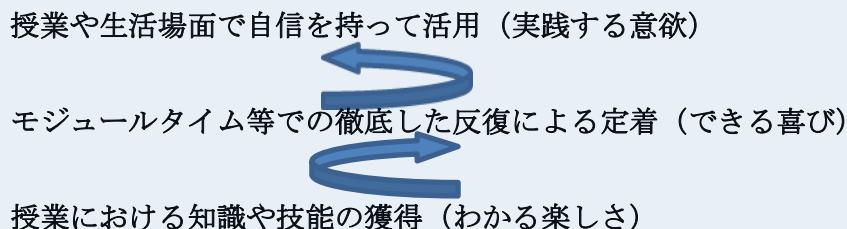
- ・家庭学習の習慣化と基本的生活習慣の定着を目指した取組
- ・自己管理能力・自己指導能力の向上を目指した健康教育・生徒指導の取組（自立して自ら行動できる児童の育成）
- ・児童理解を基盤とした保護者への啓発と働きかけ
- ・運動の習慣化と生涯体育につながる多様な運動部活動の実施
- ・京野菜など、「すくすく畑」での栽培活動や食育活動

7 具体的取組の重点

(1) 学力の向上

- ① 課題解決能力の育成を目指した研究活動
 - ・「クリティカルシンキング」をキーワードとした思考力の育成
 - ・課題解決型の学習形態の推進（アクティブラーニング）
 - ・算数科、外国語（英語）を中心とした研究活動の充実
- ② 話し合いや学び合いを通した言語活動の充実
 - ・言葉を通して、考え、話し合い、学び合う授業の創造
 - ・全教科で言語活動を意識した単元や授業の構成
 - ・授業におけるペア学習やグループ学習、学び合いなど「学ぶ喜び」「学ぶ楽しさ」につながる協働的な学習活動の展開
- ③ 少人数指導・習熟度別指導等の多様な学習形態による指導の充実
 - ・明確な目標設定と個に応じた指導の充実
 - ・できる喜びとわかる楽しさを味わえる学習展開
 - ・個々の課題に応じた授業のユニバーサル化
 - ・日本語教室における外国人児童や帰国子女に対する指導
- ④ モジュールタイムを活用した基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
 - ・学ぶ自信と学ぶ姿勢、学ぶ意欲を育む徹底した反復と継続
 - ・全学年での英語活動の実施
 - 「二の丸メソッド」（獲得⇒定着⇒活用 のスパイラルによる知力の育成）

トータルとしての課題解決型学習（アクティブラーニング）



基礎的・基本的事項の定着を目指す

- モジュールタイム 1 「読書」
- モジュールタイム 2 「算数」
- モジュールタイム 3 「言語」（国語・英語）

⑤ 家庭学習の充実に向けた取組

- ・学習予定表を基にした学習習慣の定着
- ・ジョイントプログラム等の学力調査を意識した計画的学習態度の育成
- ・自学自習に向けた学習課題の設定

⑥ 教科化を視野に入れた英語学習の充実

(英語教育推進研究拠点校事業の推進)

～英語によるコミュニケーション能力の育成～

- ・小学校低学年からの英語活動の導入
- ・小中9年間の一貫した学習カリキュラムの作成
- ・高学年における中学校教員と小学校教員による協力指導
- ・帶学習による英語フレーズの習得
- ・体験活動を重視したコミュニケーション能力の向上
- ・校内掲示などの言語環境の充実

(English shower・English dayの取組)

⑦ I C T機器の活用と情報リテラシーの育成

- ・すべての教科でのI C T機器の有効な活用
- ・調べ学習・課題解決型学習等の主体的な学習におけるI C T機器の活用

⑧ 日本語教室と連携による授業のユニバーサル化の推進

(2) 心を育む教育の充実

① 人権尊重を基盤としたより良い人間関係の構築

- ・道徳教育を核とした道徳性の育成
「心の日」として全校一斉の道徳の実施
- ・互いの思いを伝えあい分かり合えるコミュニケーション能力の育成
- ・自他共に大切にできる規律とマナーの徹底
- ・系統立てた人権教育の実施と道徳教育との関連性
- ・地域に根差した人権課題への取組と保護者への啓発

③ 特別活動等における多様な取組

- ・児童会活動の充実
「心の日」に縦割り活動や人権教育を実施
- ・児童朝会における感動体験発表

- ・部活動、委員会活動など多様性のある活動
- ・集団宿泊行事

平成29年度 4年 (2泊3日) 奥志摩「みさきの家」

※向島南小学校との合同実施

5年 (3泊4日) 「若狭湾青少年自然の家」

6年 (1泊2日) 名古屋方面

平成30年度 4年 (2泊3日) 奥志摩「みさきの家」

※向島南小学校との合同実施

5年 (3泊4日) 「花背山の家」

※向島南小学校との合同実施

6年 (1泊2日) 名古屋方面

④ 放課後の部活動による多様な体験活動

- ・中学や小学校との連携による多様な活動内容
- ・交流会等への積極的な参加

⑤ 校区の広がりを意識した体験的学習の充実 (より広い視野を持って)

- ・生活科、総合的な学習での地域教材・地域人材の活用

※3学区を網羅した形での活用

※向島地域以外の教材・人材の発掘と活用

- ・土曜学習や地域行事等の取組

※地域との連携による多様な体験活動

- ・地域清掃などのボランティア活動を通じた地域貢献

(3) 学習を支える健康安全教育・生徒指導・教育相談の取組

① 家庭学習の習慣化と基本的生活習慣の定着

- ・学習予定表や生活調べを活用した健康的な生活習慣の定着
- ・9年間を見通した家庭学習の在り方の共通理解と実践
- ・養護教諭による、健康指導の充実
- ・フッ化物洗口や歯磨き指導の徹底

② 徹底した児童理解を基盤とした生徒指導・教育相談の取組の一体化

- ・学習規律の共有と徹底 (学校間連携)
- ・心の教育部会による情報の共有と組織的な支援の実施
- ・S CやS SWとの連携による心と生活の安定を図る取組

- ③ 運動の習慣化と生涯体育につながる多様な運動経験を積む場の設定
 - ・多様な運動部活動の実施
 - ・部活動における中学校との連携の実施
 - ・朝のチャレンジタイムの設定
- ④ 「すくすく畑」を活用した栽培活動と食育の推進
 - ・京野菜などの栽培・収穫と食育の実施
 - ・栄養教諭と連携した食の指導の充実

(4) 小中一貫教育と校種間連携の推進

～向島秀蓮小中学校の創設を視野に入れた取組の構築～

- ① 小中一貫教育校「向島秀蓮小中学校」創設に向けた準備
 - ・コア会議、準備委員会による教育内容の検討
 - ・各部会における具体的教育内容の検討と作成
 - 定期的な教科会・研究部会・生徒指導部会・重点課題部会の開催
 - ・3校合同会議における教育指導計画等の作成と意思統一
- ② 学びの連続性を意識した小中一貫教育の充実
 - ・クリティカルシンキングをキーワードとした小中一貫した学習展開の工夫
 - ・教科学習における中学校との連携・共同研究の実施
 - ・小中教員による合同研修の実施
- ② 学校間での連携の推進
 - ・学校行事や児童会活動等の児童・生徒間交流
 - ・部活動等での児童・生徒間交流
 - ・小学校間での合同研究や合同学年会の実施
 - ・生活科や総合的な学習による児童・生徒間の交流
 - ・学年ごとの合同事業の実施
 - ・小学校間での宿泊行事等の合同実施
- ③ 高等学校や大学との連携
 - ・キャリア教育としての高等学校や大学との連携の実施
 - (京都工学院高校・スバル高校・文教大学・京都教育大学など)
 - ・大学ボランティアの積極的な受け入れと活用
 - ・高学年における学校見学・学校訪問の実施検討